

## 真鶴町の背戸道空間の特質をシークエンス体験により明らかにする

日大生産工(院) ○筒井 祥平

日大生産工 篠崎 健一

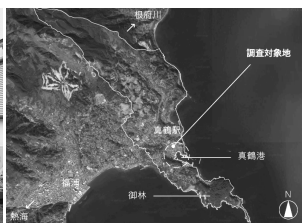
## 1. 研究の背景・目的

背戸道<sup>注1)</sup> (Fig. 1) は、真鶴半島の起伏のある地形が反映された生活道路である。背戸道を歩くと、人々の住む様子が垣間見えたり、建物と建物の隙間から、突然、海や山に向かう風景が切り取られたりするために、変化に富み場所に密着した、心地よい空間を感じられる。この背戸道の空間の特質を整理して明らかにすることを本稿の目的とする。

背戸道がある神奈川県足柄下郡真鶴町は、神奈川県西南部に位置し、箱根火山の南東側外輪山麓と相模湾に突き出た小半島から構成されている (Fig. 2)



Fig. 1 背戸道

Fig. 2 真鶴の位置<sup>注2)</sup>

## 2. 研究の方法

背戸道の心地よさは、連続した空間体験によって感じるものであると考え、体験主体が背戸道の空間体験の記録を整理し、作成する「シークエンス体験シート」 (Fig. 3) から、抽出したことがら（文章や写真、図面として表現される）の関係を考察し、気づきを得ようとする。

シークエンス体験シートはビデオや写真、メモを用いて記録した身体の動きや印象、状況をもとに [1] 背戸道の始点から終点までの距離、[2] 道の全体性を示す平面図、[3] 背戸道の空間体験から得た事実を記述した文章、[4] 事実を記述した文章をよりよく理解するための補助的役割として、その時の視線の向きで撮影する写真、その写真の注目した箇所の文章表現、[5] 経路の向きに沿って1メートル間隔で撮影した連続写真、[6] 始点から終点まで移動に要した時間を1枚のシートに並列に記したものである。

| [1] | [2] | [3] | [4] | [5]  | [6]  |
|-----|-----|-----|-----|------|------|
| 距離  | 平面図 | 事実  | 周囲  | 連続写真 | 時間   |
| 0m  |     | 1   |     |      | ○○○○ |
| 5m  |     | 2   | ○○○ |      |      |
| 10m |     | 3   | ○○○ |      |      |
| 15m |     | ・   | ・   | ・    | ○○○○ |
| 20m |     | 25  | ○○○ |      | ○○○○ |
| 25m |     | 26  | ○○○ |      | ○○○○ |
| 27m |     | 27  | ○○○ |      | ○○○○ |

Fig. 3 シークエンス体験シート

平面図は、背戸道の形状、建物の外形、物や植物の位置、階段や擁壁などを取りこぼさないよう詳細に描写した。

事実を記述した文章は、空間体験をその場所のありのままのものと、何かに注目した際の身体と物的環境との位置関係、主体の移動や身体動作を表現したものである<sup>1)</sup>。記述した文章は対象が切り替わった瞬間に分割していき、時間軸に沿って資料番号 (YM01, YM02, YM03...) を与える。

## 3. 実施

真鶴みなと地区<sup>注2)</sup> 大字横捲（よこまくり）にある一本の背戸道 (Fig. 2に示す) を対象とし、2018年9月29日に現地を訪れ、空間体験の記録を収集した。対象の背戸道はこれより以前の2017年7月11日～2018年9月29日の間に延べ42日の臨地基礎調査を行った上での選定である。

## 4. 結果

対象である27メートルの背戸道の、平面図を作成し、事実を記述した文章を27 (YM01～YM27)、視線の向きで撮影した写真と注目した箇所の文章表現19、連続写真27枚をそれぞれ作成し、移動に要した時間とともに記し、シークエンス体験シートとした。例として25秒から59秒までの部分的なシークエンス体験シートを示す。 (Fig. 4)

The characteristics of Manazuru's SEDOMICHI

Shohei TSUTSUI, Kenichi SHINOZAKI

## 4. 考察

結果より、事実を記述した文章に表したことがらを比較したり集計したりすることで、背戸道の特質を考える。以下、気づきを示す。

### 4.1. 背戸道から遠くの御林や海が見える。

空き地や建物と建物の隙間から南東方向に遠くが見通せ、御林や海が見える（YM04、YM05、YM26、YM27）。〔YM04〕を例にあげると、「...右側を向くと背戸道に面した空き地があり、視界が大きく開け、空き地の先が見通せる。...見通した先に、バス停・赤い寄棟屋根の住宅・高さ5メートルほどの1本の広葉樹がある。さらにその先の御林と空を見通せる。」とあり、背戸道から、面した空き地越しに住宅やバス停など、町並みが見え、その背後に御林が見えている。真鶴の御林は魚が集まる魚付き保安林として、港は真鶴の玄関口として町が発展してきた背景などから、地域にとって大切な空間である。道から町並みを通じて御林に連続していることが、真鶴にすることを意識させている、特に狭い道の中で不意に感じられることにより強く意識させていると考えられる。

### 4.2. 高さ方向へ視線の動きを感じる

道に面した、高さのある石の擁壁や、背戸道から数センチ高い地面によって上下に意識が向くことが多い（YM02、YM06、YM07、YM08、YM11、YM13、YM15、YM21、YM23、YM24、YM25）。〔YM08〕を例にあげると、「...屈曲した背戸道に沿って続く石の擁壁と、擁壁の上に2メートルほどの高さがある広葉樹が見え、見上げるように見る」とあり、視線が背戸道に沿った擁壁から、擁壁の上に植えられている木へと動いていることが分かる。このような高さ方向への意識の変化は対象の背戸道で11見られ、〔YM02〕から〔YM25〕まで、背戸道内の分布にほとんど偏りが無いことから、高さ方向の変化が随所に

見られ、極端な高さ方向への視線の動きにより、狭い道に広がりを感じさせていることが考えられる。

### 4.3. 植物が道にはみ出し領域を変化させる。

背戸道に植物が現れ、背戸道の領域を植物が変化を感じることが多々ある（YM02、YM10、YM11、YM13、YM14、YM15、YM17、YM20、YM21、YM22、YM25）〔YM17〕を例にあげると、「...左の石の擁壁の一部からシダが生い茂り、一点に集中した、丸みをもつ直径40センチほどの塊になっている。」とあり、石の擁壁から背戸道側に生えた大きなシダの塊が、背戸道の領域を変化を感じさせていることが考えられる。

## 5. 終わりに

シークエンス体験の記録を整理し、1枚のシートにまとめて見ることによって、真鶴の特徴的な背戸道からその特質を考察した。他の背戸道でも同様にシートにより特質を考察し、道の共通性や差異を明らかにし、背戸道の理解を深めることが課題である。

### 「参考文献」

- 1) 福田 隼登、藤井 晴行:空間体験に基づいた心地よいシークエンスの身体的な図式の表現方法に関する研究、日本建築学会計画系論文報告集、81巻724号、2016年、p. 1281-1290
- 2) 諏訪 正樹(著)、堀 浩一(著)、人工知能学会(監修):一人称研究のすすめ、近代科学社、2015

### 脚注

- 注1) 背戸道とは家の裏口が面した路地のことを指すが、明確な定義はない。
- 注2) Google map 航空写真(2018年撮影)筆者加工(2018.9.24.16:50 DL)
- 注3) 「真鶴みなと地区」は真鶴町まちづくり計画によって区分けされた七つの地区の一つ。真鶴みなと地区の中で、さらに磯崎・上山・横吹・宿・横宿・横捲・中宿・海岸・埋立の八つの字にわかれる
- 注4) 括弧内の数字は1~25までの解釈の記述に対応している。



Fig. 4 シークエンス体験シート 部分図